

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500064		
法人名	有限会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす2号館		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	平成23年6月2日	評価結果市町村受理日	平成23年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で生きていくということは、赤井川の住民として、受け入れてもらえる事かと思えます。利用者の方がおひとりで散歩に出かけられた時や災害時等に快く協力を得られるように、地域の方と顔見知りになり、ともに介護支援をしていけるようになるよう、努力しています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0192500064&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0192500064&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年6月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あまらんす2号館」は緑豊かな美しい自然環境の中にあり、敷地も非常に広い。同経営のグループホームあまらんす1号館とは隣同士で、お互いに畑の収穫物を分け合ったり散歩中の利用者を見守り合うなどの協力体制が整っている。建物内部は木目を基調とした清潔で落ち着いた造りで、トイレ、洗面台、浴室が広く、エレベーターも設置されており設備面も整っている。全体に広々とした造りで、居間の大きな窓からは季節の移り変わりを感じることができる。利用者はゆったりとしたソファやコーナーの休憩スペースなどで自由にくつろいでいる。室内の装飾もシンプルで上品である。理念に対する職員の理解が深く、日々のケアで理念を実践している。地域との交流も盛んで、町内会行事に参加したり事業所主催の夏祭りに近所の方や小学生を招待して共に楽しんでいる。近所の方からもらったハスカップやブルーベリーで職員がジャムを作ってお返しするなど温かい触れ合いがある。医療関係では利用者・家族の希望に応じた医療機関を選択してもらい、「受診説明記録」で医師に情報を提供し、医師からの情報も詳細に記録している。また、札幌など遠方でも希望に応じて通院支援を行っている。職員は利用者に優しく思いやりのある態度で接しており、利用者の表情は明るい。家族からの感謝の言葉も多い。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域性を活かし、自然の中で、自分の家のように安全に外出ができることを、地域の方にも理解して頂き、受け入れて頂いています。	「おたがいさま」で始まる法人の理念に加えて「地域に根ざしたホームを目指す」の文言が入った介護スタッフ理念を掲げている。理念は、共用空間や事務室、休憩室などに掲げられ、職員の理解も深く、日々のケアで実践されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村のお祭りや、敬老会、小中学校の催し物、ヒマな釣り交流会や健康まつりにも招待して頂いています。また、村内の文化祭にも出品させて頂き、交流を深めています。	町内会に加入し、高齢者交流会などに参加している。また、事業所主催の夏祭りには近隣の方や小学生などを招待して楽しんでもらっている。近所の方からもらったハスカップやブルーベリーで職員がジャムを作ってお返しするなど温かい触れ合いがある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村のお祭りの際にスタッフが手伝いをさせて頂いたり、ごみ拾いなどにも参加させて頂いています。また、会社の役員が社会福祉協議会の評議員で、協力させて頂いています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に、ホームの利用状況や行事の開催状況等をおたえしています。その際、避難訓練や救急車を要請する際の注意事項等についてもご意見を頂き、取り入れさせて頂いています。	現在は2ヶ月毎に開催しており、役場職員、町内会役員、利用者家族、村会議員、消防署所長などにも毎回参加を得ている。案内は事前に電話連絡し、議事録も作成しているが、行事報告などの記載が中心で、全家族には配付していない。	議事録には当日話し合った内容全体を記録することを期待したい。また、議事録は全家族に配付し、参加できなくとも会議に興味を持ち意見を出してもらうよう働きかけていくことを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	夏祭りの際には、祭りの趣旨に賛同して頂き、村の中学生にも一緒に参加して頂けるよう働きかけをして頂きました。また、祭りの際に使用する備品についても、村の方より貸して頂きました。	事業所を開設した当時は村役場を頻繁に訪問し担当者にご相談した。現在でも引き続き相談し情報交換している。祭りの行事で、事業所がお神輿担ぎや中学生のカルデラ太鼓に参加した際も村役場に相談にのってもらった。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はおこなっていません。身体拘束についての説明や取り決めなどや、身近なこと(言葉掛け、態度)が身体拘束につながる可能性があるということを、スタッフ研修などの中で話し合い、取り組んでいます。	身体拘束のマニュアルを整備し、日々のケアの場で施設長や管理者が、表現、動作、言葉のトーンを含めて職員を直接指導している。玄関の鍵は日中は掛けず、利用者の出入りの際は職員が見守っており、隣接している同経営のグループホームの職員にも見守りをお願いしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアの段階で常に全スタッフで話し合い、解決しています。また、スタッフが常に問題意識をもてるよう働きかけを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当する方の入居がないため、していません。今後当施設でも必要になる場合があると思いますので、研修会等に参加し、活用していきたいと考えています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を読む際詳しく説明し、理解、納得して頂けるよう努めています。また解約の際も利用者の立場に立ち、不満のないよう家族の方との連絡をこまめに行っています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの様子から察知し、スタッフが優しい心得をもって、不満な事や要望など引きだすように努めています。その意見を大切に、運営に反映させています。	家族が頻繁に訪問しているため、その際に管理者及び職員が意見を聞いている。家族の意見は全員で共有し、改善に向けて話し合うなどの取り組みを行っている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや研修、各委員会などで出た意見を、できる限り反映させるよう努力しています。	毎月のミーティングと内部研修の際に職員の意見を聞いている。また、職員は行事担当委員などの役割を担っている。勤務体制についても可能な限り職員の意見を反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭環境に合わせた労働時間の配慮をしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるよう勤務を組んだり、平日頃より職員の育成を進めています。受けてきた研修については、できる限り皆に広めていけるようミーティングなどで伝えています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のネットワークに入会し、研修会に参加しています。互いの施設訪問なども計画の話し合いがあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全てのスタッフが理念に沿った介護を目指しながら、利用者さんに安心して生活して頂ける関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の事でお知らせや確認等の連絡時、また訪問された時、ご家族からのご相談は、いつでも電話や訪問の際にできるように、また、管理者が対応できない時は、職員が努めてお話を聞くようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	具体的には病院選びや買い物などが多いが、随時支援できるよう対応しています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さん一人ひとりの過去より得意な事を会話から知り、日々に活かせるものは、スタッフが「教えて頂く」立場で一緒に生活しています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かなことでもご家族との連絡を密にし、協力体制をとっています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から来られている利用者の方が多いため、家族の方に連れて行って頂いたり、通院、ドライブの際に少し遠回りをして自分の住みなれた町などを通ったりするようにしている。	知人・友人の訪問の際は状況に応じて居室や居間でゆっくり話ができるように配慮している。馴染みの店が遠方で好みの買い物ができない利用者には、近くで雰囲気似ている店を探して連れて行っている。また、毎月家族に手紙を出している利用者には希望に応じて傍にいてサポートしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの中にスタッフも交わり、会話に賛同したり、散歩やお手伝いの際にもスタッフが関わり、支援しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後当施設でも必要となる場合があると思いますので、研修会に参加し、活用していきたいと思えます。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプラン作成の際、ご本人の要望や困っていることを伺っています。また、その都度ご本人の訴えに対応し、お話を伺っています。	日々の関わりや家族、医療機関などからの情報をアセスメントに詳細に記録して蓄積し、思いや意向を把握するようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでに利用していた事業所や病院より情報を頂いています。また、ご本人やご家族よりお話を伺い、フェイスシートに記入し、把握できるように配慮しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの過ごし方を介護日誌やバイタル表に記載し、特に重要な変化については連絡ノートを活用して、職員全員が共有できるようにしています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、主治医の意見や要望も考慮した上で、ほとんどのスタッフが参加しサービス担当者会議を開催し、意見を出し合っています。また、月1回のモニタリングを行い、ケアプランの実施状況の把握をしています。	家族や医療機関からの情報をもとに利用開始から1ヶ月ほどで介護計画を作成し、その後は担当職員を中心に全職員からの情報や意見を参考に毎月1回以上モニタリングし、短期で2ヶ月、長期は6ヶ月毎に介護計画作成者が計画を見直している。状況が変化した際はその都度見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等は、スタッフの連絡ノート等で把握するようにしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族、利用者、スタッフとの交流会に、自社で運営している温泉を利用し、親交を深めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内にある区会、消防の方々に、日頃よりご協力、ご指導して頂いています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ今までのかかりつけ医であった病院へ通院し診て頂いています。遠方で難しい場合は、事業所の協力医とも相談し、継続できるように働きかけています。受診の際は受診表を作成し、バイタルや状況の変化を記入し提示しています。	眼科・内科・歯科医師が定期的に訪問してくれるが、利用者・家族の希望する医療機関の受診を支援している。車での通院支援を行い、医療情報は「受診説明記録」に記載し医師に提供し、医師からの情報も記録して利用者ごとにファイリングしている。札幌など遠方の通院も希望に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフからの報告を受け、看護師が定期的に利用者さんと関わり、相談を受けたり、生活リハビリの指導など行っています。また、受診の際主治医の指示を、介護職員に適切に報告しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、こまめにお見舞いに伺い、元気になるよう声を掛けたり、状況の把握を行っています。またご家族や医師・看護師等とも連絡を取りながら、早期退院に向けて働きかけています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、重度化した利用者のご家族には、こまめに連絡を取り合い、面会時は、日常生活の様子をより具体的に説明していきたいです。	医療機関や家族の協力のもとに看取りを行う方針である。利用開始時に利用者・家族に「看取りの体制と実施方針」を示し説明している。重度化した時は都度家族などに説明し業務日誌にも記録しているが、同意書は特に交わしていない。	利用開始の説明時と、状況が大きく変化した際は、医師や家族などの関係者と随時意志を確認し合い、必要に応じた同意書や確認書を交わしていくことが期待される。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、対応できるよう心がけています。また、消防の協力を得ながら、普通救命の講習を受けたりして、緊急時の対応ができるよう心がけています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の方々には、日頃から何かあれば協力して頂けるよう相談しています。	今年度、第1回目の避難訓練を夜間想定自主訓練で行い、2回目の訓練を6月に消防署の立会いのもとで行う予定である。災害対応マニュアルが整備されており、災害用備品も準備され、救急救命訓練も定期的に行われているが、避難訓練時の地域協力はまだ得られていない。	今後は消防署の立会いのもとに昼・夜間想定避難訓練を年2回以上行っていくことを期待したい。また、運営推進会議などで地域の協力を仰ぎ、緊急時の連絡網に入ってもらったり避難訓練に参加してもらうなど呼びかけていくことを期待したい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を大切に、また、個人情報に関しては、日々スタッフにプライバシーの保護を徹底するよう統一しています。	利用者をお客様であるという認識で施設長や管理者は接遇面を厳しく指導しており、語調などが気になった場合は、都度職員に注意している。個人ファイルは保管場所を決めて他者の目に触れないよう管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら身振り手振りや筆談等でコミュニケーションを鶏、自己決定ができるよう支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常において日々の行事等はあるものの、無理強いしたりせず、時間において再度声掛けする等の工夫をし、一人ひとりのペースを尊重しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物や理・美容等一緒に出かけられるよう支援しています。また、訪問での理・美容もして頂いており、おしゃれができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた野菜や山菜などの旬のものを、どのようにして食べたらおいしいか、利用者さんと一緒に考えて作ったりしています。食器拭きなども利用者さんに手伝って頂いています。	彩り良く、一人ひとりが食べやすい形態で提供され、職員も毎回3人が同じ食事を一緒に食べている。畑の収穫物や地域住民からもらった食材が食卓にのぼったり、お節料理などの季節に応じた行事食も楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取の量を記録、把握しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭を行って頂いています。舌ブラシも使用してきれいな状態を維持して頂き、誤嚥性肺炎の予防に努めています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表に記入、確認しながら声掛け等を行い、便座に座って頂いて、気持ちよく排泄ができるよう支援を行っています。	自立排泄が保てるよう利用者個々に応じた支援に努め、衛生用品を使用する場合にはごまごまするなどの使用感にも気を配り、失禁した場合は本人が傷付かないように優しい声かけに留意し、自尊心や羞恥心に配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄ノートで排便間隔をチェックしています。毎朝ヨーグルトを食事につけたり、午前の水分補給に牛乳を飲んで頂いて、便秘予防を行っています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯等、ご本人の意思を尊重し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。	利用者個々に曜日を決めて、週2回以上、午後の時間帯で支援している。利用者の状況に応じて、曜日を変更したり、シャワー浴や足浴なども取り入れている。入浴時はコミュニケーションを深める機会と捉え、楽しい会話を心掛けている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏にならずに安眠できるよう、優しく穏やかな関わりを心がけています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性や危険性を随時理解しながら、服用時間や未投薬等がないよう注意し合いながら行っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の際には普段出来ないことを楽しんで頂けるよう企画しています。買い物ツアーでは自分の目で見たいものを選び、昼食はメニューからご自分の食べたいものを選ぶなど、気分転換の支援をしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>スタッフや、利用者さんのご家族とも相談しながら、近所の散歩や行事での外出、また、買い物やお盆のお寺・お墓参り、お正月の帰省等、できる限り希望に添えるよう支援しています。</p>	<p>天候の良い日は散歩やドライブなどへ積極的に出かけている。温泉での観桜会や果物狩り、買いものツアー、牧場で動物を見ながらおやつを味わうなど、利用者と職員が共に戸外で楽しんでいる。冬場は通院を兼ねての買い物や除雪、雪灯りを作って眺めるなどの支援を行っている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者さん個々の希望や力に応じ、行っています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族への電話連絡やご兄弟・知人へのお手紙等、切手やはがきを購入するなどの支援を行っています。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感や生活感を大切に、気持ちよく過ごせるよう工夫をしています。</p>	<p>玄関扉は和風の両開き引き戸を用い、外玄関に緩やかなスロープを設置している。入口には手洗いうがいコーナーを設けて感染予防に配慮し、高低をつけた2タイプの洗面台も設置されている。ダイニング・リビングルームの窓から自然の景色が一望できる造りであり、全体的に上質な雰囲気の装飾が施されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>広いソファや椅子を多めに配置し、思い思いに過ごして頂けるよう配慮しています。また、玄関前などにも椅子を置いて、一人になれる空間や居場所を作っています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居する際に、ご本人が使い慣れた物を持ってきて頂くようお願いし、ご本人の生活に合った居室作りができるよう支援しています。</p>	<p>居室入口には自室と分かるよう手作りの表札を掲げている。クローゼット、ベッドが備え付けられ、利用者は好みの家具や使い慣れた生活用品などを持ち込んでいる。居室の設えは、職員が利用者の意向を聞き、生活しやすいよう設えを支援している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自室には表札をかけ、わからない方にはご自分の身近な人形や花など、目印になるものをつけています。</p>		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500064		
法人名	有限会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす2号館		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	平成23年6月2日	評価結果市町村受理日	平成23年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「希 ユニット」に同じ
-------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0192500064&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0192500064&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年6月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域性を活かし、自然の中で、自分の家のように安全に外出ができることを、地域の方にも理解して頂き、受け入れて頂いています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村のお祭りや、敬老会、小中学校の催し物、ヒマな釣り交流会や健康まつりにも招待して頂いています。また、村内の文化祭にも出品させて頂き、交流を深めています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村のお祭りの際にスタッフが手伝いをさせて頂いたり、ごみ拾いなどにも参加させて頂いています。また、会社の役員が社会福祉協議会の評議員で、協力させて頂いています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に、ホームの利用状況や行事の開催状況等をおたえしています。その際、避難訓練や救急車を要請する際の注意事項等についてもご意見を頂き、取り入れさせて頂いています。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夏祭り際には、祭りの趣旨に賛同して頂き、村の中学生にも一緒に参加して頂けるよう働きかけをして頂きました。また、祭りの際に使用する備品についても、村の方より貸して頂きました。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はおこなっていません。身体拘束についての説明や取り決めなどや、身近なこと(言葉掛け、態度)が身体拘束につながる可能性があるということを、スタッフ研修などの中で話し合い、取り組んでいます。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアの段階で常に全スタッフで話し合い、解決しています。また、スタッフが常に問題意識をもてるよう働きかけを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当する方の入居がないため、していません。今後当施設でも必要になる場合があると思いますので、研修会等に参加し、活用していきたいと考えています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を読む際詳しく説明し、理解、納得して頂けるよう努めています。また解約の際も利用者の立場に立ち、不満のないよう家族の方との連絡をこまめに行っています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの様子から察知し、スタッフが優しい心得をもって、不満な事や要望など引きだすように努めています。その意見を大切に、運営に反映させています。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや研修、各委員会などで出た意見を、できる限り反映させるよう努力しています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭環境に合わせた労働時間の配慮をしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるよう勤務を組んだり、平日頃より職員の育成を進めています。受けてきた研修については、できる限り皆に広めていけるようミーティングなどで伝えていきます。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のネットワークに入会し、研修会に参加しています。互いの施設訪問なども計画の話し合いがあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全てのスタッフが理念に沿った介護を目指しながら、利用者さんに安心して生活して頂ける関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の事でお知らせや確認等の連絡時、また訪問された時、ご家族からのご相談は、いつでも電話や訪問の際にできるように、また、管理者が対応できない時は、職員が努めてお話を聞くようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	具体的には病院選びや買い物などが多いが、随時支援できるよう対応しています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さん一人ひとりの過去より得意な事を会話から知り、日々に活かせるものは、スタッフが「教えて頂く」立場で一緒に生活しています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かなことでもご家族との連絡を密にし、協力体制をとっています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から来られている利用者の方が多いため、家族の方に連れて行って頂いたり、通院、ドライブの際に少し遠回りをして自分の住みなれた町などを通ったりするようにしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの中にスタッフも交わり、会話に賛同したり、散歩やお手伝いの際にもスタッフが関わり、支援しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後当施設でも必要となる場合があると思いますので、研修会に参加し、活用していきたいと思えます。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプラン作成の際、ご本人の要望や困っていることを伺っています。また、その都度ご本人の訴えに対応し、お話を伺っています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでに利用していた事業所や病院より情報を頂いています。また、ご本人やご家族よりお話を伺い、フェイスシートに記入し、把握できるよう配慮しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの過ごし方を介護日誌やバイタル表に記載し、特に重要な変化については連絡ノートを活用して、職員全員が共有できるようにしています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、主治医の意見や要望も考慮した上で、ほとんどのスタッフが参加しサービス担当者会議を開催し、意見を出し合っています。また、月1回のモニタリングを行い、ケアプランの実施状況の把握をしています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等は、スタッフの連絡ノート等で把握するようにしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族、利用者、スタッフとの交流会に、自社で運営している温泉を利用し、親交を深めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内にある区会、消防の方々に、日頃よりご協力、ご指導して頂いています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ今までのかかりつけ医であった病院へ通院し診て頂いています。遠方で難しい場合は、事業所の協力医とも相談し、継続できるように働きかけています。受診の際は受診表を作成し、バイタルや状況の変化を記入し提示しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフからの報告を受け、看護師が定期的に利用者さんと関わり、相談を受けたり、生活リハビリの指導など行っています。また、受診の際主治医の指示を、介護職員に適切に報告しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、こまめにお見舞いに伺い、元気になるよう声を掛けたり、状況の把握を行っています。またご家族や医師・看護師等とも連絡を取りながら、早期退院に向けて働きかけています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、重度化した利用者のご家族には、こまめに連絡を取り合い、面会時は、日常生活の様子をより具体的に説明していきたいです。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、対応できるよう心がけています。また、消防の協力を得ながら、普通救命の講習を受けたりして、緊急時の対応ができるよう心がけています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の方々には、日頃から何かあれば協力して頂けるよう相談しています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を大切に、また、個人情報に関しては、日々スタッフにプライバシーの保護を徹底するよう統一しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら身振り手振りや筆談等でコミュニケーションをとり、自己決定ができるよう支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常において日々の行事等はあるものの、無理強いしたりせず、時間をかけて再度声掛けする等の工夫をし、一人ひとりのペースを尊重しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物や理・美容等一緒に出かけられるよう支援しています。また、訪問での理・美容もして頂いており、おしゃれができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた野菜や山菜などの旬のものを、どのようにして食べたらおいしいか、利用者さんと一緒に考えて作ったりしています。食器拭きなども利用者さんに手伝って頂いています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取の量を記録、把握しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭を行って頂いています。舌ブラシも使用してきれいな状態を維持して頂き、誤嚥性肺炎の予防に努めています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表に記入、確認しながら声掛け等行い、便座に座って頂いて、気持ちよく排泄ができるよう支援を行っています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄ノートで排便間隔をチェックしています。毎朝ヨーグルトを食事につけたり、午前の水分補給に牛乳を飲んで頂いて、便秘予防を行っています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯等、ご本人の意思を尊重し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏にならずに安眠できるよう、優しく穏やかな関わりを心がけています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性や危険性を随時理解しながら、服用時間や未投薬等がないよう注意し合いながら行っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の際には普段出来ないことを楽しんで頂けるよう企画しています。買い物ツアーでは自分の目で見たいものを選び、昼食はメニューからご自分の食べたいものを選ぶなど、気分転換の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフや、利用者さんのご家族とも相談しながら、近所の散歩や行事での外出、また、買い物やお盆のお寺・お墓参り、お正月の帰省等、できる限り希望に添えるよう支援しています。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん個々の希望や力に応じ、行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話連絡やご兄弟・知人へのお手紙等、切手やはがきを購入するなどの支援を行っています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感を大切に、気持ちよく過ごせるよう工夫をしています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いソファーや椅子を多めに配置し、思い思いに過ごして頂けるよう配慮しています。また、玄関前などにも椅子を置いて、一人になれる空間や居場所を作っています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に、ご本人が使い慣れた物を持ってきて頂くようお願いし、ご本人の生活に合った居室作りができるよう支援しています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には表札をかけ、わからない方にはご自分の身近な人形や花など、目印になるものをつけています。		



目標達成計画

事業所名 グループホームあまらんす2号館

作成日：平成 23年 7月 9日

市町村受理日：平成 23年 7月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進委員会の話しあった内容について、議事録を作成しているが詳しい内容を記載しておらず、また、ご家族への配布も行っていない。	運営推進会議に対して興味を持って頂き、一人でも多くのご家族が参加して頂けるようにしたい。	請求書やあまらんす便りを郵送する際に、運営推進会議の開催日、会議の内容を郵送させていただきます。また、会議が終了した際は、詳しい内容を記載した議事録を郵送させて頂き、一人でも多くの家族の方に参加や意見の徴集ができるようにしていきます。	H23.9 (次回会議にて)
2	33	重度化した時の方針について、利用開始時には利用者・ご家族に対し説明をしているが、入居後に状況が変わった際に、ご家族に対して説明を行っているが、同意書は特に交わしていない。	必要に応じた同意書や確認書を随時交わし、ご家族の意志や同意の内容を書面で残す。	医療機関に受診する際に使用している受診説明記録を利用し、医師の指示欄に状況の変化について医師に記載して頂き、ご家族の確認、押印して頂きます。	H23.8
3	35	年に2回の避難訓練は開催しているが、それに伴い消防署や地域の方々の協力・参加にはまだ至っていない。	消防署や地域の方々の協力や参加を得て、スムーズに昼・夜間想定避難訓練を実施したい。	運営推進会議の際に、協力や参加を得られるよう働きかけたい。	H23年度内 (次回避難訓練にて)
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。